

平成26年度「全国学力・学習状況調査」における  
南丘 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A・算数A】	主として「活用」に関する問題 【国語B・算数B】
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・ 実生活において不可欠であり、常に活用できているようになっていくことが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

#### (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

# 南丘 小学校「平成26年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

## 1. 教科に関する調査結果の概要

### ① 学力調査(国語A・B、算数A・B)結果

#### ・本校の結果

国語A	全国平均正答率を下回っている。
国語B	全国平均正答率を下回っている。
算数A	全国平均正答率を下回っている。
算数B	全国平均正答率を下回っている。

(資料) 本市・全国の結果【平均正答率】

		国語A	国語B	算数A	算数B
平成24年度	本市	79.4	52.2	70.4	56.1
	全国	81.6	55.6	73.3	58.9
平成25年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4
平成26年度	本市	69.1	52.6	76.2	55.4
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2

### ② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的には全国平均正答率を下回っていたが、物語の登場人物の相互関係を捉える力がついていた。</li> <li>・漢字の書き取り問題に課題があり、書き取りをを習慣化する必要がある。</li> </ul>
	よくできた問題	新聞の投書を読み、表現の仕方を捉える問題は正答率が高い。
	努力が必要な問題	故事成語の意味と使い方を理解する問題については、誤答率が高かった。

国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国平均正答率をわずかに下回っていたものの、年々上昇している。</li> <li>・立場を明確にして、質問や意見を述べる問題に課題がある。</li> </ul>
	よくできた問題	詩の解釈における着眼点の違いを捉える目的や意図に応じて、必要な内容を適切に引用して書く問題は、無解答率が低かった。
	努力が必要な問題	分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書く問題は正答率が低かった。

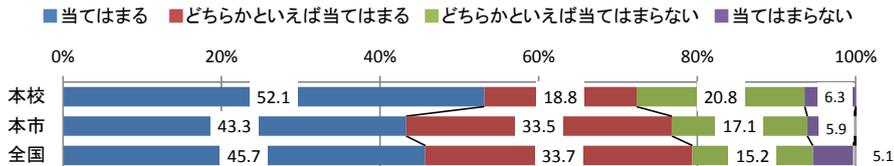
算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国平均正答率を下回っており、立体図形の問題が誤答率が高く、空間認識が苦手なことが分かった。</li> <li>・算数の計算についての力が不足しており、基礎的な計算力をつける必要がある。</li> </ul>
	よくできた問題	二つの数量の関係について、単位量当たりの大きさを調べる場面と図とを関連付ける問題は正答率が高かった。
	努力が必要な問題	四則の混合した式の意味について問うた問題は、誤答率が高かった。

算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国平均正答率を下回っている。</li> <li>・一部、数量の問題で工夫して計算する方法を記述できるようになるなど、応用できるようになった。</li> </ul>
	よくできた問題	示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述できる児童の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	全体と部分の関係を示すために用いるグラフを選択する問題は、正答率が低かった。

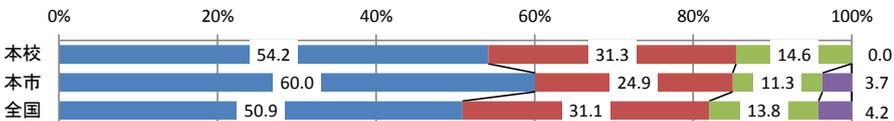
### ③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

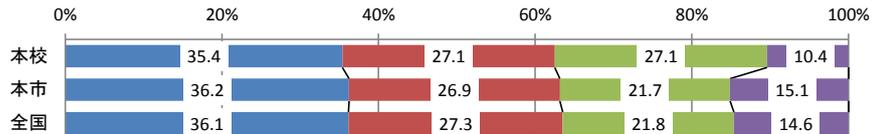
69
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか



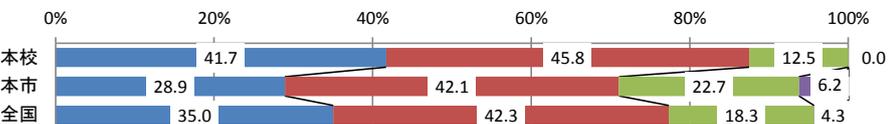
44
授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う



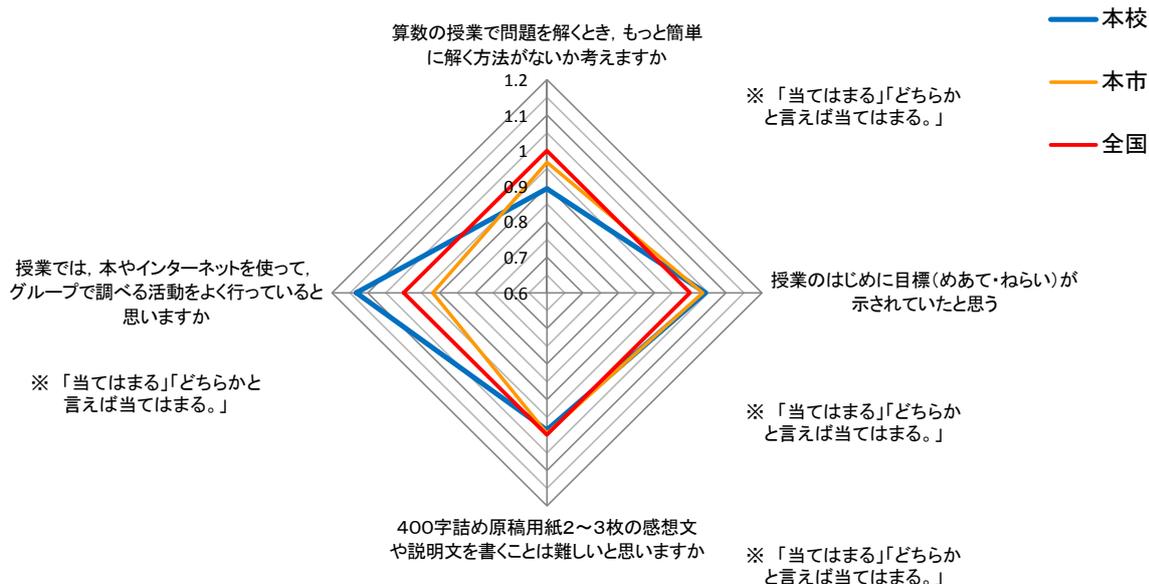
46
400字詰め原稿用紙2~3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか



41
授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていると思いますか



### ④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



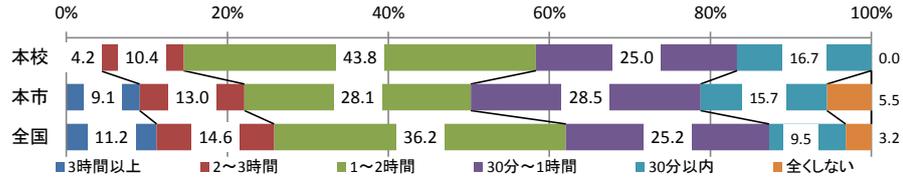
### ⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

- ・文章に書くことに抵抗感をもっている児童が増加している。書くことに関しては、自分の考えを書いて整理してから説明させたり、授業の終わりに振り返りを書く活動を位置付けたりして、書くことを授業に取り入れる必要がある。
- ・算数科の学習において「はやく、かんたん、せいかく」に解くやり方はないか考えると答えている児童は、全国と比較してもその差が広がっている。今後は「は・か・せ」を意識させる授業を展開したり、算数的活動を効果的に取り入れた授業を行ったりしていく。
- ・目標をもって学習に取り組む児童の割合が全国平均を上回ってきており、全校でめあて学習に取り組んでいる成果が出てきている。

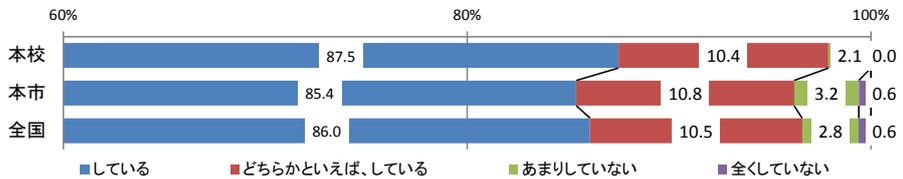
## 2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

### ① 家庭学習習慣に関する調査結果

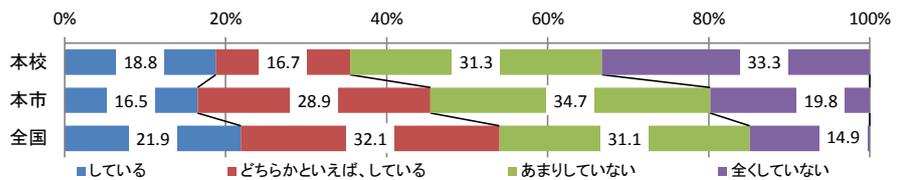
14  
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



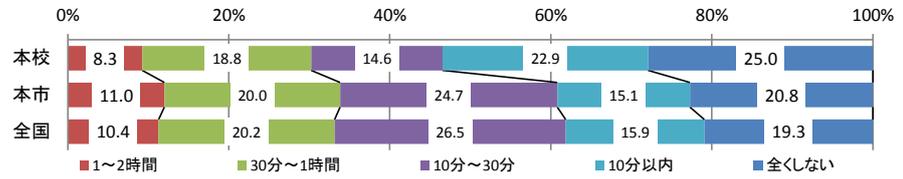
22  
家で、学校の宿題をしていますか



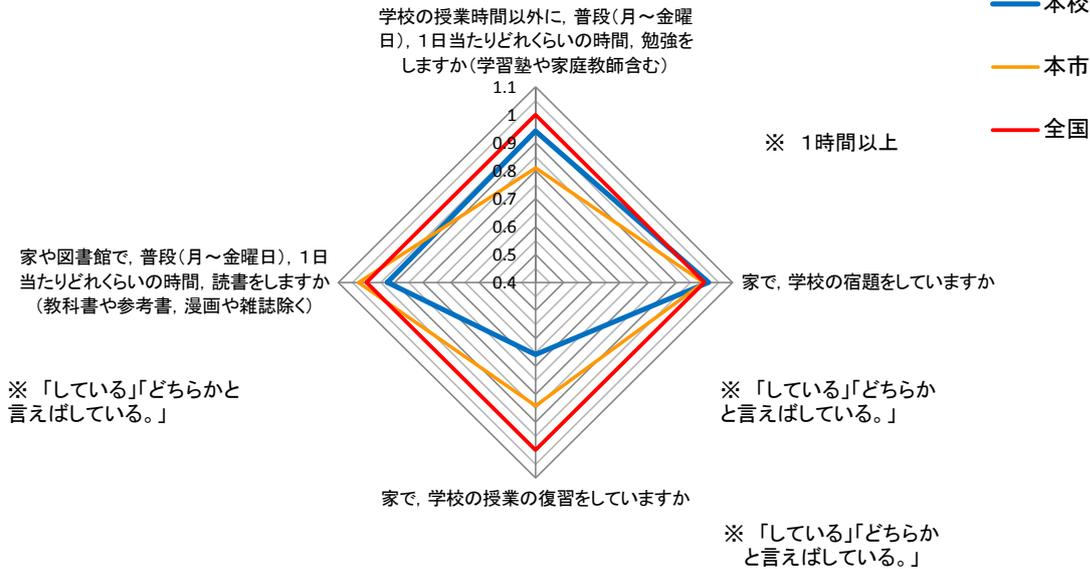
24  
家で、学校の授業の復習をしていますか



17  
家や図書館で、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌除く)



### ② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



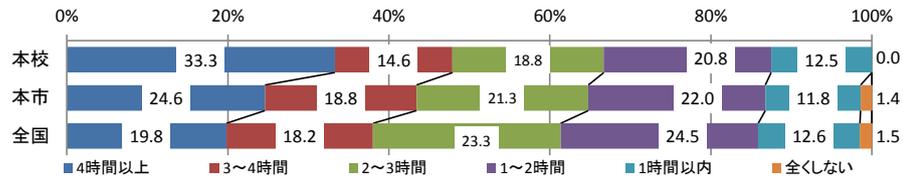
### ③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

・1時間以上家庭学習をしている児童の割合は58.4%と本市の平均を上回っているが、全国平均には届かない。全くしない児童はいないが、30分以下の児童が16.7%おり課題が見られる。引き続き「南丘小学校 家庭学習のすすめ」で全校で時間のめやすを示したり、家庭学習の具体的な取り組み方を指導する必要がある。

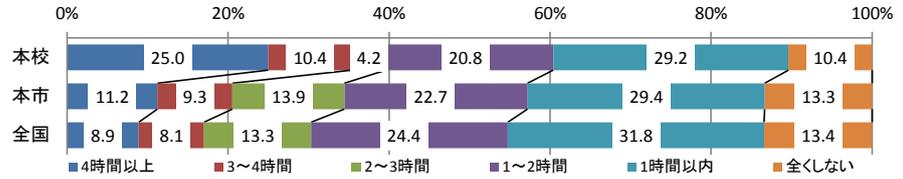
・自分で計画して授業の復習をしている児童の割合も全国より大差がある状況が続いており課題である。自学ノートに取り組みさせるなど家庭と連携して進める必要がある。

#### ④ 生活習慣等に関する調査結果

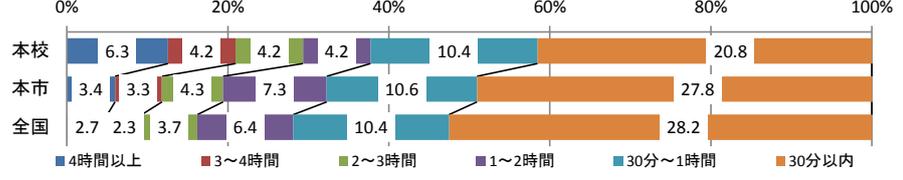
11  
 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらい  
 の時間、テレビやビデオ・DVDを見  
 たり、聞いたりしますか(テレビゲーム  
 除く)



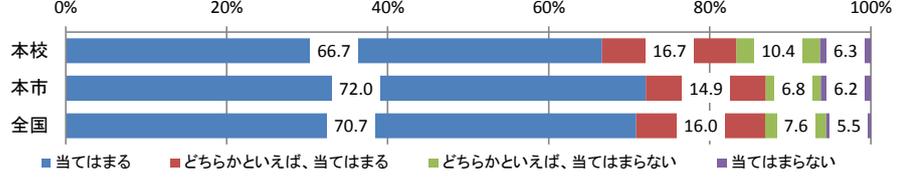
12  
 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらい  
 の時間、テレビゲーム(コンピュータ  
 ゲーム、携帯式のゲーム含む)をし  
 ますか



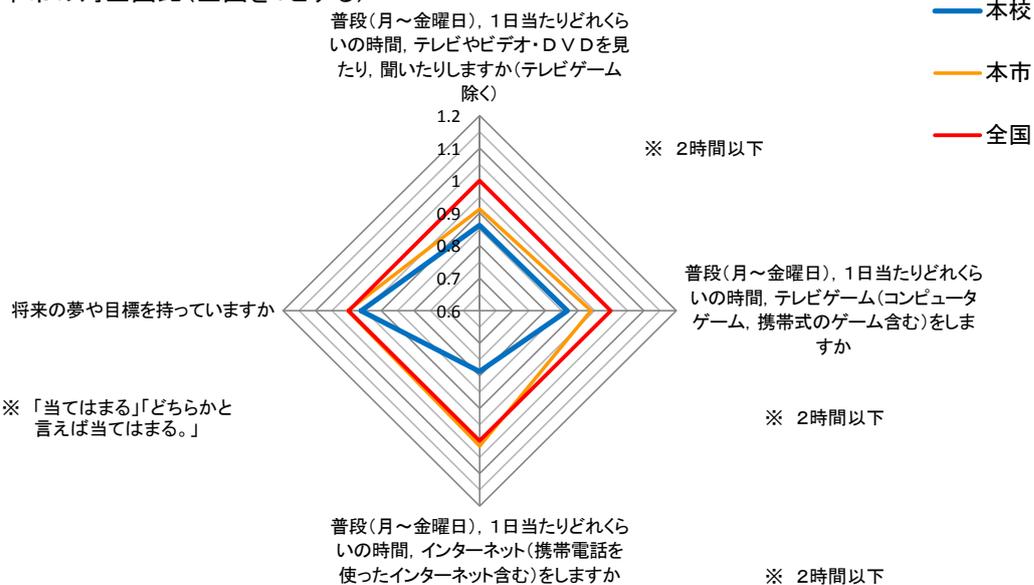
13  
 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらい  
 の時間、インターネット(携帯電話を  
 使ったインターネット含む)をし  
 ますか



10  
 将来の夢や目標を持っていますか



#### ⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



#### ⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

・テレビ、ゲーム、インターネット等の接触時間は、全国並びに本市の平均をかなり下回っている。しかし、4時間以上の長時間の利用の割合は大きく上回っている。  
 ・この二極化を解消するために、メディアとの正しいつきあい方について、随時指導していく必要がある。  
 ・将来の夢や希望をもっている生徒は全国と同じくらいいる。それぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせることが必要である。

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎学力向上に関する職員会議の定期的な実施に努める
  - ・全職員で学力の実態の確認・分析をする
  - ・職員研修において学力調査の過去問題を解く時間を設ける
- ◎学力向上のための特設時間を設置する
  - ・朝自習(火曜、木曜の週2回)で全校一斉に読書タイムを実施
  - ・給食準備中に少人数加配教員を中心に2、3名の職員による「算数道場」の実施
- ◎学級の実態に応じてアシストシートや活用力を高めるワークを利用する
  - ・家庭学習にアシストシートを利用する
- 「書く」ことに慣れる取組の実施
  - ・学習の終わりにふり返りを書く時間を設ける

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎家庭に向けて家庭学習推進を啓発
  - ・家庭学習推進のための家庭向けパンフレット「南丘小学校 家庭学習のすすめ」をもとに啓発を行う
  - ・「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用し、家庭と連携して進める
  - ・家庭学習マイスター賞への参加の呼びかけ
  - ・長期休業日中の宿題に学力調査の過去問題やアシストシートを活用
- ◎全国学力・学習状況調査の課題と取組状況について保護者へ周知
  - ・学校だよりで全国学力・学習状況調査の概要について周知